

彙 報

日本語学会事務局
(会長 泉井久之助)

昭和52年度秋季大会を控え、その開催諸事項を決定するため当年度第2回常任委員会を下記のごとくに開催。場所は、事務局所在校が夏期休暇中のため午後は事務停止中につき、京都市公立学校共済組合・堀川会館会議室を借用。

昭和52年度第2回常任委員会

日 時：昭和52年9月3日（土）午後2時～5時

場 所：京都堀川会館会議室

出席者：泉井久之助，下宮忠雄，矢島文夫，岸本通夫，堀井令以知，関本至

オブザーバー：近松洋男（大会運営委員長），岩本 忠（事務局主務者）

欠席者：加藤正信，徳永康元，原田信一（各委任状あり）

議 事：1) 第75回大会のプログラムを決定，案内状を作成した。

2) 第76回（次年度春季）大会を早稲田大学（大会運営委員長：古川晴風教授）において開催する件を報告・協議して諒承を得た。

3) 会費値上げ案を委員会に提出することになった。

4) 次期常任委員選挙期日について協議した。

5) 投稿規定1の改正について協議した。

6) 選挙規則17の改正について協議した。

以上の協議および諒解事項に基づき、その討議と決定を得るため、52年度第2回（一般）委員会を、第75回大会の第1日午前、次のごとくに開く。

昭和52年度第2回委員会

日 時：10月15日（土）午前10時30分～12時50分

場 所：京都外国語大学教授会室（8号館2階）

出席者：泉井久之助（会長）、池上二良、岸本通夫、北嶋静江、江 実、

下宮忠雄、鈴木孝夫、関本 至、竹内和夫、塚本 勲、徳川宗賢、
徳永康元、林 栄一、原田信一、蛭沼寿雄、吉町義雄（以上20名）

オブザーバー：服部四郎（副会長）、大東百合子、日下部文夫（以上会計監査
委員）、岩本 忠（事務局主務者）

欠席者：（委任状提出）

池上禎造、石綿敏雄、井上和子、岩井隆盛、梅田博之、大江三郎、
大江孝男、奥津敬一郎、風間喜代三、加藤正信、川本茂雄、北村
甫、木村彰一、金田一春彦、国広哲弥、W. A. グロータース、五島
忠久、小林英夫、佐藤喜代治、佐藤 茂、柴田 武、新村 猛、田
中克彦、田村すゞ子、辻 直四郎、寺村秀夫、中島文雄、西田龍雄、
野村正良、野元菊雄、橋本萬太郎、長谷川松治、林 大、日野資純、
藤原与一、松田伊作、三根谷 徹、吉川 守（以上38名）

：（委任状なし）

井上史雄、岩倉具実、上村幸雄、大野 晋、小泉 保、河野六郎、
阪倉篤養、崎山 理、佐藤則之、千野栄一、長谷川欣佑、平山輝男、
松本克己、三宅 鴻（以上14名）

報告および議事：

- 1) 第1回委員会の議事録を承認した。
- 2) 第2回常任委員会の報告。
- 3) 第76回大会は早稲田大学（大会運営委員長は会員古川晴風教授）
において昭和53年6月3日（土）・4日（日）の両日開催すること
を決定。同大会の研究発表公募の締切は昭和53年2月28日。
- 4) 会費の500円値上げを決定した。（理由：数年来の支出増大額は
年平均50万円。来年度もまた同額の支出増が見込まれる。よって
この50万円を会員数1000にて割れば、500円となる。これによっ
て昭和53年度より国内会費3,500円、海外会員の会費16米ドル
（約4,200円）とする。これに伴ない会則注記第7条第1項の「所

定の手続」中の会費の金額を上のごとくに改訂)

- 5) 選挙規則17条の一部を次のように改正した。「選挙管理委員は、選出された会長の在住地区の個人会員中より委員が選出する。」
- 6) 事務局職員に木下恵子氏を昭和52年10月より追加委嘱することを決定した。
- 7) 文部省科学研究費補助金第一段階審査委員の任期を一年にすることに關する日本学術会議の問合わせにつき協議・諒承した。
- 8) 次期常任委員の選挙は昭和53年1月中に行なうことになった。

つづいて、午後第75回大会第1日を盛會裡に次のごとくに開く。

第75回大会

期 日：昭和52年10月15日(土)・16日(日)

会 場：京都外国語大学(電話075-711-5181)

第1日(10月15日)(午後1時30分～4時30分)

開会の辞(学長代理)

講 演：近松洋男(大会運営委員長・京都外国語大学)「バルトロメ・トレス・ナアロの用語法」

講 演：村山七郎(京都産業大学)「東亞の諸言語と日本語——日本語の系統——」

會員懇親會(午後5時～7時)(京都ロイヤルホテル中華料理の間)

第2日(10月16日)

研究発表(午前9時30分～11時30分)

- 1) 「Duecento イタリア語における前置詞の用法——出発点『～から』の意を表わす da と di について——」……………古浦敏生(広大)
- 2) 「徳之島におけるコンピュータ言語地理学」……………萩野綱男(東大)
- 3) 「単語アクセントの知覚に關する個人差と方言差について」……………杉藤美代子
- 4) 「『ユラン法』(1241年)の諸伝本における中世デンマーク語關係詞」……………菅原邦城(大外大)

臨時会員総会（午後1時～1時30分）

報 告 「第12回国際言語学会議（ウィーン）」 服部四郎

研究発表（午後2時～3時30分）

5) 「エスキモー語の動詞形成法」…………… 田村すゞ子（早大）

6) 「受動態に関する一つの仮説」…………… 山口 澁（京大）

7) 「文中における主語変換とその表現」……… 山本 昭（Kansas 大）

特別講演：Willem A. GROOTAERS（上智大学）「私の二重言語生活の体験」

（用語は日本語）

閉会の辞（会長）

寄贈図書リスト（昭和52年4月1日～昭和53年1月31日）

宇部短期大学学術報告 No.13 （香川学園宇部短期大学 1977,3）

大阪教育大学英文学会誌 No.22 （大阪教育大学英語英文学教室 1977,3）

- カナノヒカリ Nos. 657~665 (カナモジカイ 1977, 8~12 ; 1978, 1)
- 関西外国語大学 研究論集 No. 26 (関西外国語大学 1977, 7)
- 近代語学文学国際連合 活動要覧
(日本学術会議 語学・文学研究連絡委員会 1977, 3)
- 月刊 言語 Vol. 6, No. 8 (大修館書店 1977, 7)
- 言語文化研究 III (大阪大学言語文化部 1977, 3)
- 計量国語学 Vol. 11, Nos. 1 ; 2 ; 3 (計量国語学会 1977, 6 ; 9 ; 12)
- 同上 Vol. 11 付録 (同上 1977, 9)
- 考古学雑誌 Vol. 62, No. 4 ; Vol. 63, Nos. 1 ; 2 ; 3
(日本考古学会 1977, 4 ; 7 ; 9 ; 11)
- 甲南大学紀要 文学編 22, 25 (甲南大学 1977, 3)
- 国語学 第109 ; 110 ; 111 集 (国語学会 1977, 6 ; 9 ; 12)
- 国語学 研究と資料 No. 2 (早大 国語学研究と資料の会 1977, 12)
- 国語学研究 No. 16 (東北大学文学部「国語学研究」刊行会 1977, 6)
- 昭和 51 年度 国立国語研究所年報 28 (国立国語研究所 1977, 9)
- 国立民族学博物館研究報告 Vol. 2, Nos. 1 ; 2 ; 3
(国立民族学博物館 1977, 3 ; 6 ; 9)
- 語学研究 Nos. 10 ; 11 ; 12 (拓殖大学語学研究所 1977, 3 ; 8 ; 11)
- 史苑 Vol. 37, Nos. 1 ; 2 (立教大学史学会 1976, 12 ; 1977, 3)
- 宗教研究 Vol. 51 第 1 ; 2 ; 3 輯 (日本宗教学会 1977, 6 ; 9 ; 12)
- 人類科学 29 1976 年度九学会連合年報 (九学会連合 1977)
- 人類学雑誌 Vol. 84, Nos. 3 ; 4 ; Vol. 85, No. 1
(日本人類学会 1976, 9 ; 12 ; 1977, 3)
- 聖書翻訳研究 Nos. 13 ; 14 (日本聖書協会 1977, 6 ; 12)
- 増加図書目録 (昭和 45 年 7 月~昭和 46 年 3 月) 図書通報 No. 24
(電気通信大学附属図書館 1977, 3)
- 本位田重美先生定年記念論文集『地域と文化』
(本位田重美先生定年記念事業会 1977, 3)
- 朝鮮学報 第 83 ; 84 ; 85 輯 (朝鮮学会 1977, 4 ; 7 ; 10)

通 信 Nos. 29 ; 30 ; 31

(アジア・アフリカ言語文化研究所 1977, 3 ; 7 ; 11)

テレトピア '77年4月号~12月号 ; '78年1月号

(日本電信電話公社 広報部 1977, 4 ~12 ; 1978, 1)

電子計算機による国語研究 VIII

(国立国語研究所 1977, 2)

電気通信大学学報 Vol. 27, No. 2 ; Vol. 28, No. 1

(電気通信大学 1977, 2 ; 8)

東京外国語大学論集 Area and Culture Studies 27

(東京外国語大学 1977, 3)

東洋学文献類目 1975年度

(京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1977, 9)

東洋音楽研究 第41・42号

(東洋音楽学会 1977, 8)

東洋文庫年報 (昭和50年度)

(東洋文庫 1976, 12)

東洋文庫刊行物目録 [在庫分]

(同上 1975, 8)

東方学 Vol. 54

(東方学会 1977, 7)

東方学会報 No. 32

(東方学会 1977, 8)

東洋学報 Vol. 58, Nos. 1・2 ; 3・4 ; Vol. 59, No. 1・2

(東洋文庫 1976, 12 ; 1977, 3 ; 10)

都大論究 No. 14

(東京都立大学国語国文学会 1977, 4)

新潟大学教育学部紀要 No. 18 (人文・社会科学編)

(新潟大学教育学部 1977, 3)

日本学士院紀要 Vol. 33, No. 2 ; Vol. 34, Nos. 1 ; 2

(日本学士院 1975, 6 ; 1976, 6 ; 11)

日本学術会議月報 Vol. 18, Nos. 4-12

(日本学術会議広報委員会 1977, 4-12)

日本語学校論集 No. 4 (東京外国語大学外国語学部附属日本語学校 1977, 3)

福田昆之『日本語系統論上の諸問題』

(FLL 1977, 8)

日本民俗学 Nos. 109 ; 110 ; 111 ; 112 ; 113 ; 114

(日本民俗学会 1977, 1 ; 3 ; 5 ; 9 ; 1978, 1)

- ノートルダム清心女子大学紀要 (国語・国文学編) Vol. 1, No. 1
 (ノートルダム清心女子大学 1977, 3)
- 函館英文学 XVI (函館英語英文学会 1977, 6)
- 広島大学文学部紀要 Vol. 36 ; 特輯号 1 ; 2 ; 3 ; Vol. 37 ; 特輯号
 (広島大学文学部 1976, 12 ; 1977, 12)
- 文学研究 第 74 輯 (九州大学文学部 1977, 3)
- 文科系文献目録 XXIV 体育学編 上 (日本学術会議第 1 部 1977)
- 放送文化 '77 年 5 月号 ~ 12 月号 ; '78 年 1 月号 ; 2 月号
 (日本放送出版協会 1977, 5 ~ 12 ; 1978, 1 ; 2)
- 方言研究年報 続 1, 続 2 (広島方言研究所 1976, 1977)
- 法政大学文学部紀要 No. 22 (法政大学文学部 1977, 3)
- 中嶋幹起『閩語東山島方言基礎語彙集』
 (アジア・アフリカ言語文化研究所 1977, 3)
- 同 上 日本語索引 (同 上)
- 民族学研究 Vol. 41, No. 4 ; Vol. 42, Nos. 1 ; 2 (日本民族学会 1977, 3 ; 6 ; 9)
- 月刊 みんぱく '77 年 10 月号 ; 11 月号 ; 12 月号 ; '78 年 1 月号
 (国立民族学博物館 1977, 10 ; 11 ; 12 ; 1978, 1)
- 山口大学教養部紀要 Vol. 11 (山口大学教養部 1977, 10)
- 山口大学文学会志 Vol. 27 (山口大学 1976, 11)
- 琉球大学語学文学論集 No. 21 (琉球大学法文学部 1976, 12)
- 立正大学国語国文 Vol. 13 (立正大学国語国文学会 1977, 3)
- Acta Asiatica* (Bulletin of the Institute of Eastern Culture) 32, 33
 (東方学会 1977)
- WELMERS, Wm. E. : *A Grammar of Vai* (University of California
 Publications Linguistics 84, 1976)
- Annual Reports* Vol. 2 (I. C. U., 1977)
- Archiv Orientální (ArOr)* Vol. 45, Nos. 2 ; 3 ; 4 (Academia Praha, 1977)
- Brno Studies in English* Vol. 12 (Univerzita J. E. Purkyně, Brno, 1976)
- Bulletin d'Analyses de la Litterature Scientifique Bulgare*, Nos. 1 ; 2

- (Academie Bulgare des Sciences, Sofia, 1976)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. XL, Part 2 ; 3 (University of London, 1977)
- LINDOW, John : *Comitatus, Individual and Honor* (University of California Publications Linguistics 83, 1975)
- Commentationes Humanarum Litterarum* 56, 57 (Societas Scientiarum Fennica, Helsinki, 1976)
- Current Contents of Academic Journals in Japan 1974 / 1975*
(学術誌刊行センター, 1977)
- Descriptive and Applied Linguistics* (Bulletin of the I.C.U. Summer Institute in Linguistics) Vol. X (I.C.U., 1977, 4)
- Études Romanes de Brno*, Vol. VII ; VIII (Universita J. E. Purkyně, Brno, 1974 ; 1975)
- Eoneonag : Journal of the Linguistic Society of Corea*, No. 2 (The Linguistic Society of Korea, 1977, 4)
- Kurzfassungen* (XII. Internationaler Linguisten-Kongress, Wien, 1977)
- Literature, Music, Fine Arts*, Vol. X, Nos. 1 ; 2 (German Studies, Section III, 1977)
- Мовознавство, Nos. 1-5 (Наукова думка, Київ, 1977)
- KARTTUNEN, Frances and James LOCKHART : *Nahuatl in the Middle Years* (University of California Publications Linguistics 85, 1976)
- Naše Reč : Ústav pro Jazyk Český*, ročník 59, číslo 4 ; 5, 1976, ročník 60, číslo 1 ; 2 ; 3 ; 4 ; 1977 (Academia nakladatelství Československé akademie věd)
- Philologia* No. 9 (三重大学外国語研究会, 1977, 3)
- Phonetica : Journal of the International Society of Phonetic Sciences* Vol. 34, No. 1 (S. Karger, Basel, 1977)
- Русская литература, Nos. 1 ; 2 ; 3 ; 4 (Ленинград, 1977)
- Русский язык в школе, Nos. 2 ; 3 ; 4 ; 5 ; 6, (Просвещение Москва, 1977)

Studia Phonologica X (京都大学音声科学総合研究部会, 1976)

Slovo a Slovesnost, ročník XXXVIII, číslo 1 ; 2 ; 3 (Československá Akademie věd, 1977)

Sophia Linguistica III (上智大学, 1977)

MALMBERG, B. : *Structual Linguistics and Human Communication*
(Springer-Verlag. Berlin, 1976)

JONES, Linda Kay : *Theme in English Expository Discourse* (Jopiter Press, Illinois, 1977)

Українська мова і література в школі, Nos. 3-12 (Радянська школа, Київ, 1977)

Вестник Ленинградского университета (История-Язык-Литература), Nos. 2 ; 8, 14, 20 (Ленинград, 1977)

Wissenschaftliche Zeitschrift der Wilhelm-Pieck-Universität Rostock, Jahrgang XXV, Heft 3 ; 4 / 5 ; 6 / 7 ; 8 ; 9 1976, Jahrgang XXVI, Heft 1, 1977 (Rostock, DDR)

◇ 本誌は文部省昭和52年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。

第七十二号 訂 正

	誤	正		
p. 23 下から1行目	である	である。)		
p. 24 下から8, 2	}	}		
p. 25 7, 8, 19				
p. 26 11			駆逐	駆逐
p. 27 7				
p. 28 3				
p.119 下から6行目	「事務費 100,000」	「通信費 100,000」		